

平成21年度 青少年問題協議会（第2回）会議録

日時：平成21年11月6日（金）午前10時～

場所：市役所503会議室

1. 開会（スポーツ青少年課長より）

2. 青少年問題協議会会長（和光市長）挨拶

青少年団体活動支援事業に関する先日の事業仕分けでの結果については、そのまま反映させるものではないが、意見を参考にし、改善していかなければならない。

3 議題

スポーツ青少年課長 議事に入ります。会長、お願いいたします。

会長 それでは議題（1）事業上半期報告について各担当課長から説明をお願いします。

(1) 平成21年度和光市青少年育成関連事業上半期事業報告について上半期事業報告を資料に沿い、スポーツ青少年課長、産業支援課長、生涯学習課長、こども福祉課長が説明。

青少年問題協議会委員 承認

その他（こども福祉課長）虐待について増加している。特に5月など学校が休みの日が多い月などに多い傾向がある。（11月の児童虐待防止推進月間について説明）

会長 次に議題（2）の平成22年度和光市青少年健全育成重点目標についてスポーツ青少年課長から説明をお願いします。

(2) 平成22年度和光市青少年健全育成重点目標（案）についてスポーツ青少年課長から平成22年度の追加点を説明。

追加点 重点目標の説明部分に「さらに、家庭こそ青少年健全育成の基盤となるべき場ですが、家庭の教育力の低下が指摘されています。また、大人のモラルの低下も青少年を取り巻く環境を悪化させている原因の一つです。」

「社会生活のマナーやルールなどを身につけ、」を追加した。育成の基盤を認識するためである。

会長 何かご意見はありますか？

委員 事業仕分けの結果を踏まえ、今後どうするのか。

会長 事業仕分けの振り返りを原課でやっていき、指摘への対応をこれからやっていく。また、この対応については広報で年度内に示す。

目的に対し、事業があるので、動き、方向性を担当が見ていく必要がある。

青少年問題協議会委員 承認

会長 次に平成21年度青少年健全育成標語の選定について副会長から説明をお願いします。

(3) 平成21年度青少年健全育成標語の選定について斎藤副会長より説明

今回、1705点の応募があり、子どもたちは一生懸命考えて応募してくれた。選出作品は別紙のとおりである。テーマは「話をしていますか？家族や友だちと・・・」幹事会では、これだけ多くの作品から10点を選出する作業も大変だから学校で何点かずつ選んでもらったらどうかとの意見もあったが、選ばれなかったほかのこどもたちの作品を見る事が出来なくなるし、全部を見ることができ楽しかった。標語もポスターも作文もこのように子どもたちは一生懸命応募してきてくれている。

作文についても昨年の3,905点から今年は4,151点と年々増えている。

教育は時間とお金がかかり、20年～30年先にならないとわからないし、結果が出るものではない。それを何の効果もないと事業仕分けで言われるのはおかしい。我々はいつも目的について考えている。重点目標にも追加された、「家庭での教育力」がまさに基盤であり、家庭で子どもが見放されたらわれわれもどうにもしようがない。

12月19日作文・標語・ポスター表彰式はぜひ見に来てください。毎年、ポスターと標語の入選作品を絆創膏の啓発用品に使用され、喜ばれている。夏季スポーツ大会の参加した子どもたちのあの笑顔を事業仕分けで不要とした人に見てほしいくらいである。

青少年問題協議会委員 承認

会長 事業仕分けでは担当者の説明が仕分け人に伝わらなかった。職員への叱咤の意味であると思う。

12月19日子どもたちの作文・ポスター・標語の表彰式にはみなさんご出席ください。

会長 議事につきましたは以上です。そのほかで何かありますか。

斎藤副会長 「家庭の日」があるが、第三日曜日でなくても具体的に凧上げ大会や「わが家の鍋自慢」などの事業で和光市の家庭に定着させていきたい。

地区別懇談会で出た話で、ラジオ体操中に地震があったが、そのときどうしたらいいかわからなかったのでマニュアルがあったら、とのことだった。

会長 市で地震対策の掲載してある冊子は作成している。

高野副会長 ある本によりますと、大人が子どもにしてあげることとして、「楽しい思い出を経験させること」と書いてありました。

育てる会（中尾委員）

育てる会30周年事業は子どもたち自身が企画し、出来ることをしている。

育てる会の未整備地区については、今後、PTA联合会や、自治会と連携をとっていきたい。

斎藤副会長 30周年事業の「スマイルシティ」は子どもたちがネーミングした。

先日締め切った2次募集（お店の部）もたくさんの応募があった。

子ども実行委員が「笑顔あふれるまち、ごみのないまち」にしたいということを書いてくれている。子どもたちのまちづくりの実体験にしたい。周年事業というと普通、

講演会などをする事が多いが、育てる会は、子どもたちに味わってほしいのである。
事業仕分けでいろいろとお金がかかっているといわれたかもしれないが、それほどかかっていない。協力者に依頼している。

P T A 連 合 会（中村委員）

P T A は学校間で連絡会議をしており、情報の共有化や横のつながりをだいじにしている。各地区で携帯電話のマナーやフィルタリングの講習をしたり、勉強会をやったり、インフルエンザの情報の共有化も図っている。教育のこともみんなで考えている。
子どもたちが将来楽しかったと言えるようにしたい。

校 長 会（丸山委員）

青少年健全育成は、学校教育と家庭教育が基盤であると考えますが、一番課題となっている。小学校・中学校とも生徒指導で困難をきたしている。授業妨害であったり、担任との関係であったりし、また家庭との連携がうまくいかず、児童虐待などは大変把握しにくい。
児童虐待については、5月、6月の健診で、身体を医師が見て、確認している。
学校が異変を察知したときは、こども福祉課や地区の民生委員と連携をとっている。ただ、学校ではなかなか虐待が分からないし、見えないので、ぜひ地域からの情報が学校にほしい。

こども福祉課長

地域や関係機関との連携をとっていききたい。
ささやかな情報でも市民のみなさんからいただきたい。

委員 保護者の方が不在となる場合の緊急の預かり先はあるか。

こども福祉課長

ファミリーサポートセンターの児童夜間養育事業で預かることができるが、利用するには保護者がお金を支払う必要がある。

委員 緊急の対応も行政でやってほしい。

会長 検討しながら横のつながりでケースバイケースで早めに行政の担当者に相談してほしい。

終了

出席者 市長、須貝、高野、木田、小野、丸山、岩崎、中村、石田、小結、斎藤、中尾、村山、山田、富澤（甚）、小林、別所、畠山、浦郷

欠席者 栗原、富澤（勝）、大久保、御子柴、戸部、柳下、本橋、中島、藤村、本橋、穴戸、大谷、神杉、傍聴者 なし

事務局 スポーツ青少年課長、課長補佐、担当職員2 こども福祉課長、産業支援課長、生涯学習課長